

# CUBIC AQUARIUM SYSTEMS

## キュービックジェリーフィッシュアクアリウム

### CASJA80L

#### 取扱説明書 ダウンロード版



キュービックジェリーフィッシュアクアリウムのご購入ありがとうございます。

この説明書を良く読み、設置や稼働、生体の導入を行って下さい。

この説明書のガイドに従い、セットアップやメンテナンスを行うことで、ジェリーフィッシュアクアリウムを  
長期にわたりお楽しみ頂けます。



重要

- ・ この説明書を全て読み、全ての注意事項をお守り下さい。
- ・ この説明書を保管しておいて下さい。
- ・ 本製品を改造・加工等することは、破損やケガの原因となりますので絶対におやめ下さい。
- ・ 異常時（こげ臭いなど）は、電源プラグを抜いて下さい。
- ・ 電源ソケットへのほこり・水滴の付着や、接続が不完全な場合に、火災や感電の原因となる恐れがありますのでご注意ください。
- ・ 水槽はアクリル製ですので、衝撃を与えないよう、持ち運び・設置等の取扱いには十分ご注意ください。
- ・ 水槽をご使用になる前に亀裂・割れ等がないことを確認して下さい。亀裂・割れ等が発見された場合にはご使用にならず、ご購入店にご相談ください。



警告

- ・ 水槽装置の使用には水の使用を伴うため、感電にご注意下さい。
- ・ 小さい子供が近くにいる場合は目を離さないようにご注意ください。

組み立てる前に：

水槽本体と全ての付属パーツを箱から取り出し、輸送中の損傷等が無いかをご確認下さい。万一、損傷等が見られた場合は、直ぐに販売店にご連絡下さい。

内容物：本体 ×1  
トップカバーパネル ×1  
トップカバーリアパネル ×1  
リアカバーパネル ×1  
メディアタワー（ポンプ接続口付き蓋を含む） ×1  
LED 照明システム用リモコン（単4 電池 ×2 は別途購入） ×1  
流量調整機能付循環ポンプ ×1  
差し込み式フィルタースポンジ（取り付け済み） ×2  
脱着式 LED ライトバー（取り付け済み） ×1  
密閉式電源ボックス ×1  
密閉式電源ボックス用ネジ ×2  
ホースコネクターセット ×1  
説明書 ×1  
Oリング ×3

# 水槽の設置

キュービックジェリーフィッシュアクアリウムは、特別な飼育条件を必要とするクラゲに最適な環境を提供するため、研究とテストを行い、その結果を基に開発されました。



- ・メイン水槽にはろ過材や底砂、装飾物を決して入れないで下さい。
- ・水槽に水を張ると重量はおよそ 120Kg になります。よって水槽は最低でも 150Kg の耐荷重を備えた水槽専用台に設置して下さい。



- ・水槽はお子様の手が届かない場所に設置して下さい。また、生体にストレスやダメージを与える水温の上昇やコケの大量発生を防ぐため、日光が直接当たる場所を避けて下さい。
- ・水槽に水が満たされ、ポンプが水中に浸かるまで電源を入れしないで下さい。空中でポンプを作動させるとポンプ内部に深刻なダメージを与えます。また、この場合製品保証の対象外となります。
- ・水平器を使用して水槽が水平に設置されていることをご確認下さい。また、リアトップパネルを取り外し、フィルター室に手が届くかご確認下さい。さらに、リアパネルをガイドに沿って上方にスライドさせ、取り付けられている電源コントロールボックスに手が届くかご確認下さい。

1. 電源ボックス (Fig1 : A) をリアインナーパネル上にある 4 つの固定ポイントにスライドさせるように取り付け、2 つの固定ネジを使って固定します (Fig1 : B)。

**注意：**電源コントロールボックスは常にこの向きに取り付けて下さい。接続されている全ての電源ケーブルがボックスの下方より出ることで、水がボックス内に浸入することを防ぎます。

2. メディアタワーの設置

a) 筒状のメディアタワーを持ち、蓋を上方に持ち上げて取り外します (Fig2 : A)。この蓋は蓋のフランジにある O リングにより密着しています。

b) 海水用のろ過材をメディアタワー内に入れます。粗めのサンゴ砂 (5-10mm) や多孔性のリングろ過材などの生物ろ過材をご使用下さい。また、軽く砕いたライブロックも生物ろ過材として最適です。これは微小生物を宿していますので追加的な効果が期待できます。もし、生きたバクテリアを含まないろ過材をご使用の場合、バクテリアを定着させるためにライブロックを少量追加するか、市販のバクテリア添加剤をご使用下さい。タワーにろ過材を入れ終わったら、海水で数回すすいで細かいゴミを洗い流して下さい。これによりゴミが水槽内に流入することを防ぎます。

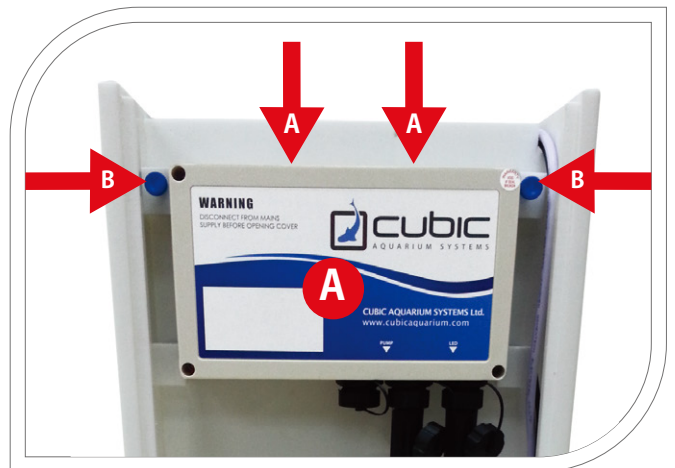


Fig1



Fig2

c) ろ過材を入れ、すすぎ終わったらメディアタワーをフィルター室 (Fig3 : B) の底面にある円形シートに固定します。これは3つのツメで固定する仕組みになっています。メディアタワーを下方方向に押しながら軽く回転させるようにして所定の場所に固定します (Fig3 : A)。

d) メディアタワーを取り付けた後、循環ポンプの排水口をメディアタワーの蓋にある取り付け口に固定します (Fig2 : D)。その蓋をメディアタワーの上部に取り付けます。Oリングによってしっかりと密閉されているかをお確かめ下さい (Fig3 : C)。循環ポンプの正面にはポンプの流量を調整できるバルブがあります。最初は流量を最小に設定して下さい (Fig2 : C)。※全閉にはしないで下さい。

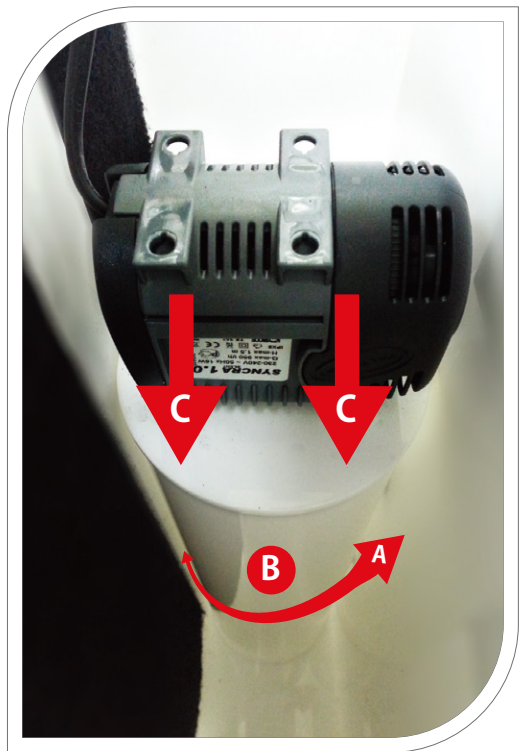


Fig3

### 3. スポンジフィルター

水槽には2つの活性炭付スポンジフィルターが付属しています (Fig4A)。それぞれのスポンジフィルターがリアディフューザープレートの両サイドにある溝に正しく装着されているか確かめて下さい (Fig4B)。スポンジは汚れや残り餌などを吸着します。また、リアディフューザーを通しての水の吸引力を広範囲に分散させ、クラゲが側面に吸い付くのを防ぎます。

### 4. LED ライトバー

リアディフューザープレートの中央から出ているLEDライトバー (Fig5:B) のコードの端を電源ボックスにある専用の接続先に繋ぎます。コードがしっかりと接続され、防水シールにより密閉されていることをお確かめ下さい。LEDライトバーはいつでも交換可能です。交換するには、ライトバーが取り付けられている溝の防護トップカバーを外し、古いLEDライトバーを上方にスライドして外した後、新しいものに取り替えます。

### 5. 外部器機の追加

水槽用クーラーまたはパワーフィルターを使用する際は、リアパネルを外し、電源ボックスの下にある給水管と排水管のナットを緩めて止水プラグを外して (Fig6 : A) 同梱されたホース接続口を取り付けます。もし、配管を接着で仕上げたい場合は、余分を残しながら止水プラグを切断し、他の配管に接着します。

**注意** 水槽と他の機器とを繋ぐ配管には必ずバルブを取り付けて下さい。メンテナンスまたはアクシデントの際に必要となります。他の機器との接続を行わない場合は、水槽に水を入れる前に止水プラグのナットを手でしっかりと締めつけて下さい。

**注意** 水の循環を確認するまで、接続した機器の電源を入れないで下さい。



Fig4A

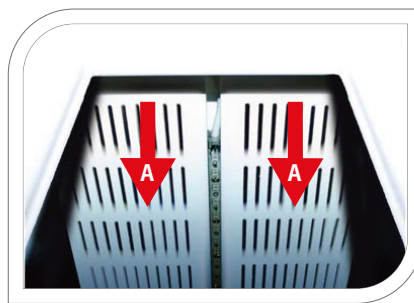


Fig4B

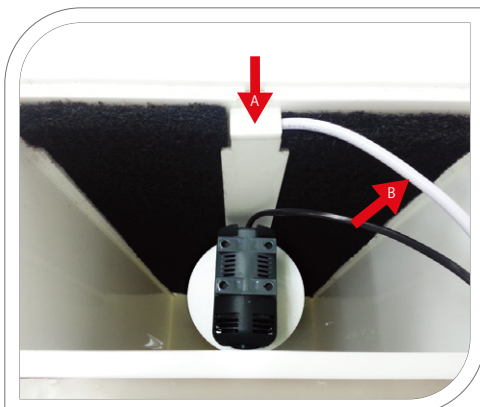


Fig5

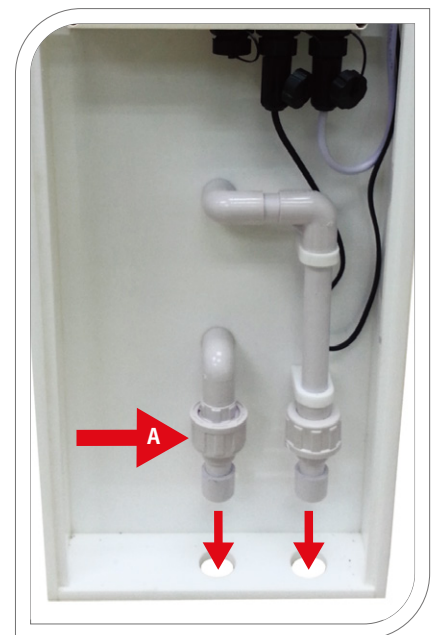


Fig6



# 水槽への注水



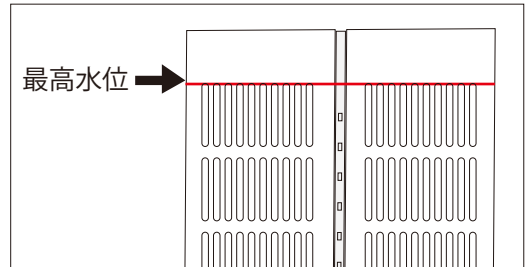
海水を作る際や蒸発に対する給水には RO 水または脱イオン化水の使用をお勧めします。水道水には、生体に悪影響を及ぼす汚染物質や塩素、成分の混入の恐れがあります。

1. 天然海水の成分に近い人工海水と、RO水を使用し 80-90L の海水を用意します。塩分濃度は屈折計や比重計を使用し 34-35ppt に調整します。

2. 海水を水槽内に注ぎます。フィルター室とメディアタワーはリアディフューザープレートとフィルターを通して自動的に満たされます。

**注意)** 水槽または他の接続した機器や接続箇所からの漏水が無いか確認します。

**注意)** リアディフューザープレートの穴より上へ水位が上がらないようご注意ください。水漏れの原因となります。



3. ライト及びポンプの電源ケーブルがパネルの切込みに収まっているか確認します。全てのパネルを取り付けます。

リアパネルは本体の溝に沿って下にスライドさせます。電源コードがパネルにある切込みに収まるように配置します。

4. 本体の電源プラグを壁のコンセントに差し込みます。

**注意)** 電源ケーブルにドリップループを設けて下さい。ドリップループとはケーブルの垂れ下がりがコンセントよりも下になる状態で、電源コードを伝った水滴が、コンセントに入り込むことを防ぎます。コードの長さが足りない場合は延長コードをご用意下さい。

a) 始動時に、LED ライトが作動します。循環ポンプが正しく作動しているかをご確認下さい。

水槽内に小さな気泡が見られますが、ポンプやメディアタワー内に残っていた空気が放出されるためであり、通常の現象です。

**注意)** 水槽内に気泡が見られなくなるまで、クラゲを導入しないで下さい。

## リモコンの使用法

本製品には色々な機能を持つ LED ライトを操作するオリジナルのリモコンが付属しています。

初期導入時は、本体の電源を入れてすぐに図中 S (色のチェンジスピード) のボタンをタッチ (10 秒程度) して下さい。数回点滅した後、点灯しコントロールが可能となります。

機能：照明の明るさ調整、固定または自動カラーチェンジ機能、自動カラーチェンジのスピード調整

※リモコンの操作可能距離は約 12m までとなっています。(障害物等により異なります) ※リモコンには単 4 電池 (別売り) が 2 本必要です。

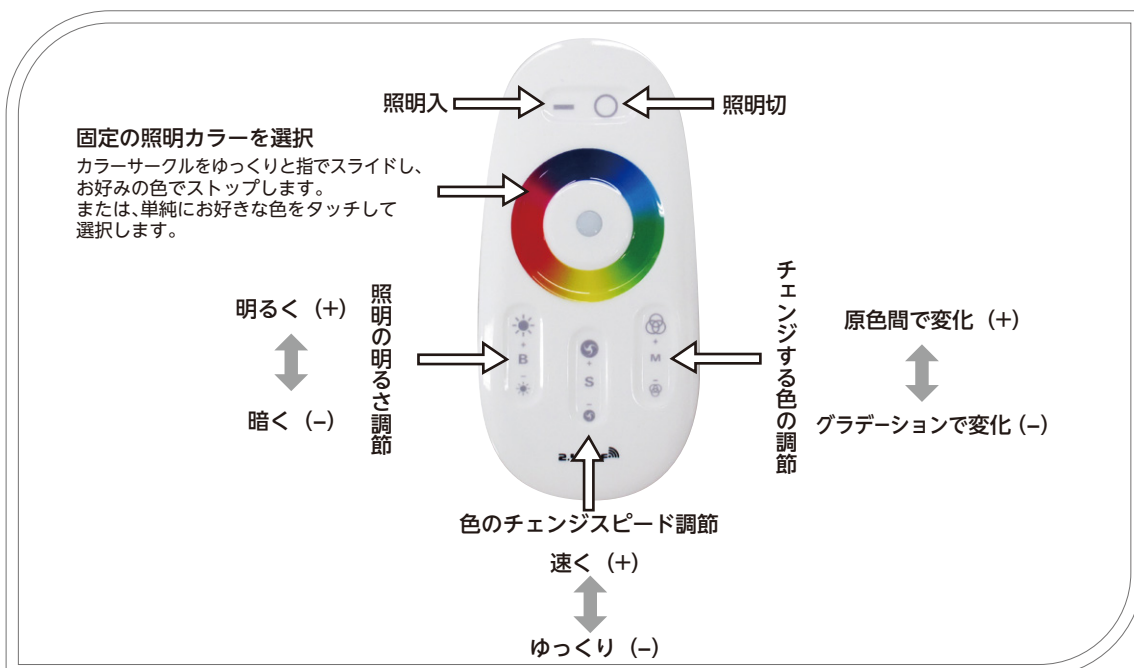
### 色固定モード

カラーサークルをタッチ



### カラーチェンジモード

M ボタン (チェンジする色の調節) をタッチ



リモコンが反応しない場合、または照明が誤作動を起こした場合

電源を入れ、すぐに図中 S (色のチェンジスピード) のボタンをタッチ (10 秒程度) して下さい。数回点滅した後、点灯しコントロールが可能となります。この操作で解決しない場合は、リモコンの電池を交換して下さい。

## 水槽の立ち上げと水槽内の流量調整

人工海水や人工的なろ過材を使用する場合は、立ち上げ期間が必要となります。セットしてから2週間は生体を導入せず待機して下さい。

**注意)** クラゲは新しく作った海水に敏感です。立ち上げ期間は飼育水をこなれさせ科学的に安定させます。また、ろ過材にはろ過バクテリアのコロニーが形成され、水の浄化を開始します。

- a) もし、生物活性フィルター(ライブロックの破片等)を使用した場合、立ち上げ期間を1週間ほど短縮することができます。
- b) 生体を入れる際は、ポンプの流量を調整する必要があります。これは循環ポンプの流量調整バルブで行います。クラゲが水槽内をゆっくり回る程度が最適です。クラゲが水槽の底に落ちたままになるのを防ぐ程度の水流で十分です。また、ゆっくりとした水流は、餌が水流の中で漂うのを助け、クラゲの捕食に最適です。



## 水槽のメンテナンスと掃除について

水槽の外部表面を掃除する場合、水道水またはRO水を使い柔らかい布で拭いて下さい。

**注意)** 洗剤や洗浄スプレーなど化学物質を含むクリーナーを使用しないで下さい。それらは生体に有害またはアクリルの表面加工にダメージを与える恐れがあります。また、水槽の接着部分を弱くする可能性もあります。それらを使用した際に生じた損害に関しての保証はいたしかねます。

- a) 時間が経過すると水槽内の内面に薄い膜が形成されます。これは一般的にバイオフィームと言われており、バクテリアや藻類の群集で構成されます。それらはアクリルに対応した柔らかいスポンジやクリーニング用具で定期的にやさしく拭き取ることで除去できます。

**注意)** 掃除を行う際は過度に力を加えないで下さい。また、粗い(硬い)研磨性の材質の用具を使用しないで下さい。これらは傷つきやすいアクリルの表面にダメージを与え、透明度を損ないます。また、バイオフィームが付着しやすくなります。

- b) 付属の活性炭付フィルターは、一定の流量を保つため、また目詰まりによる流れの違いによりリアディフューザープレートにクラゲが張り付くのを防ぐために、定期的な清掃が必要です。メンテナンスの頻度は飼育している生体の数や餌のタイプまたは量により異なります。一般的にはフィルターの洗浄を2週間毎に行うことをお勧めします。

洗浄にはフィルターを上からスライドして溝(Fig4A,B)から外し、温水で洗い流した後、RO水で最終的にすすぎます。フィルターのフラットで硬い面を叩きながら洗うと、こびりついた汚れや残り餌を除去しやすくなります。

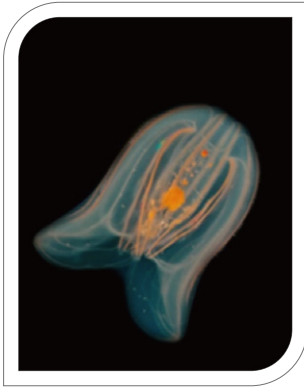
定期的なメンテナンスによりフィルターは約3ヶ月間使用することができますが、汚れ具合や消耗具合に応じて交換して下さい。フィルターは本製品を購入したショップでお買い求め頂けます。

**注意)** フィルターは必ず純正品をご使用下さい。

- c) ろ過材の追加：生体の数と給餌が適正であれば、内蔵されているフィルターシステムで十分に飼育できます。また、一般的なミズクラゲは、ある程度の水質環境に適応可能です。しかし、生体を多く導入する場合や大量の給餌を行う際には、ろ過材の追加を行う必要があるかもしれません。これには換水から次の換水までに良い水質環境を維持するために見合ったろ過材を選定します。対応する外部ろ過器等を背面の給水口および排水口に接続することでろ過材の追加を行います(Fig6)。

または、海水用の活性炭やリン酸吸着剤入りのろ過材パックをろ過室に配置する方法もあります。





d) 定期的な換水は必要不可欠で健全な水質環境を維持する役割があります。

装備されているフィルターシステムは排泄物や残り餌の大部分を分解しますが、有機物の蓄積や時間の経過による水質の低下に対しては、定期的な水替えがその蓄積の希釈と海水中の必須微量元素の補充に有効です。よって、1ヶ月に1回、少なくとも全水量の20%の換水をお勧めします。理想的には、2回に分けて2週間毎に行い、同時にスポンジフィルターの清掃も行って下さい。

注意) 換水作業の間は循環ポンプおよび付属する機器の電源をお切り下さい。機器にダメージを生じる恐れがあります。

新しい海水を入れる場合は、メインのディスプレイ水槽側から行わないで下さい。気泡がディスプレイ水槽内に生じると、クラゲの体に気泡が入りクラゲにダメージを与えます。補水用の淡水を含め、フィルター室側から注水して下さい。循環ポンプおよび他の機器の電源は、換水が完全に完了してから入れて下さい。

注意) 細かいゴミや残り餌が時間の経過と共に水槽の底に溜まる場合があります。これらの沈殿物は換水時に吸い出して下さい。その際、生体に吸い込み口が接触しないよう気を付けて下さい。吸い込みにより、生体にダメージを与える可能性があります。

注意) メディアタワーは定期的に海水で洗い流し、汚物または有機物の蓄積を除去して下さい。これは、換水時にメディアタワーを外し、水槽から抜いた海水をバケツ等に溜め、その中で揺らすことで行うことができます。



メディアタワーは海水を使って洗い流して下さい。

淡水を使うと生物ろ過を行うとろ過材内の有益なバクテリアにダメージを与えます。

注意) 全てのメンテナンスが終了したら循環ポンプの電源を入れます。その際、過度の空気がディスプレイ水槽内に噴出した場合は電源を切り、時間を置いてから再度入れて下さい。クラゲに気泡が溜まったときは先の尖っていないアクリル製の棒等でクラゲを優しくめくる等して、気泡を逃がして下さい。

e) 循環ポンプのメンテナンス：装備されている循環ポンプは、定期的なメンテナンス作業として、少なくとも3ヶ月に1回は取り外し、清掃して下さい。ポンプのインペラーはポンプの給水口のパーツを外すことで抜き取ることができます。抜き取ったインペラーを清掃し、点検して下さい。特にインペラーの状態にご注意下さい。ポンプ本体やシャフトと回転部分で構成されたインペラーやOリングは消耗部品となっており、状態に応じて交換する必要があります。これらのパーツは購入店でお買い求め頂けます。

## 万トラブルの場合

トラブルやわからない事が発生した場合は、当社ホームページからお問い合わせ、もしくはお名前と症状をご記入いただき下記 E-mail へご連絡いただくか、ご購入のお店にお問い合わせください。

お問い合わせ

E-mail : [info@mmcplanning.com](mailto:info@mmcplanning.com)

輸入・発売元 / 株式会社エムエムシー企画

〒174-0063 東京都板橋区前野町 6-29-4

<http://aqua.mmccorp.jp>

